

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

自分たちで育てる野菜／さいたま市立大谷口保育園

植物を育てる過程では、どのような体験を大切にしていますか？自分たちで、植物を苦労して育てて収穫する喜びは大きなものです。しかし、栽培では、自然の影響などで、自分たちで、なかなか解決できない問題に出会うことがあります。自分たちの大切な野菜をどうしたら守れるのか？友達や保育者と考え合い、解決しようとしている子どもたちの姿をご紹介します。



○カラスから野菜を守ろう！／5歳児

キュウリが順調に育ち、初めての収穫をしようとしていたある朝、子どもたちは、カラスに食べられてしまったキュウリを見付ける。

「あーあ…」「(食べたのは)カラスだよ、来てたもんね」「そうだそうだ」と口々に話す子どもたち。片面だけきれいに食べられているキュウリを見て残念に思う気持ちや、怒りさえ感じているようだ。そして“他の野菜は守りたい”という気持ちが徐々に表れてくる。

✦ 野菜をカラスから守る方法を考えよう！

- 子どもたちは、野菜を守る方法として、カラスよけを作ろうと考えが1つにまとまる。カラスよけとしてどのようなものがあるか、グループで話し合って自分たちで作ることになる。そして、カラフル目玉・かざ車・CDを吊り下げる・光る物を作る・トゲトゲの物を作る・かかしなどを、友達と相談しながら作る。

保育者の思い

- 大人の発想とは違い、子どもだからこそ考えられる豊かな発想を活かした作品になった。子どもたちにとって身近な材料で作上げたものの良さを感じられるのは、子どもたちの一生懸命さがあったからこそと感じた。
- 考える力に成長を感じると共に、子どもたちの思いを知ることができた。また、他の子どもの案に共感したり考えを認め合ったりする姿も多くあった。発言の少ない子どもも、友達の意見にうなずいたり、真剣な表情で考えたりする姿を見て、同じ思いなのだと感じることができた。



✦ かかしを強くする方法を考えよう

- ところが、ハブニングが発生する。カラスよけを設置した日の夕方、かかしが、強風大雨によりかかしが倒れてしまう。
- 「先生！かかしが倒れてる」「せっかく作ったのに…」「もっと強くしなきゃ」とショックを隠し切れない子どもたち。すぐに立て直すが、またすぐに倒れてしまう。「かかしを強くしたい！」と、子どもたちは言う。



- “そもそもなぜかかしは倒れてしまったのか?” 子どもたちは、話し合った。
「強風が来たから」「(素材が) 段ボールだったから?」「背骨がないから?」
「背骨?!」



- 「背骨」という言葉に子どもたちと保育者は注目する。話し合い、かかしに突っ張り棒の背骨を付けることになる。が、すぐに曲がってうまくいかない。見る度にかかしの形が変わっていくことを気にかける子どもたち。
- 強いかかしの体は何で作ればいいのか? 考え合う。「段ボールで作ると折れるから、もっと強いもので作ればよいよ」「鉄? 金属?」「鉄とかは重いよ」「少し軽いものがない」「何だろう…」と、考え合うが、案がなかなか出てこない。保育者「例えば、木は軽くて丈夫なのでは?」と、提案する。すると、「それがいい!」「木にしよう」ということになる。
- 木でかかしを作ることを決めると共に、前回のすぐ曲がってしまう原因として背骨がないことに気付いた子どもたち。かかし作りにとって大切なポイントとなり、「背骨って?」「骨って?」等、未知の世界への興味が膨らんだ。そして、骨について知りたい、調べたい! という気持ちが表れてくる。

✦ 骨を触ってみよう

- 人間の骨の全体図を見て「うわ、すごい」との声。じっくり見ている。背骨だけでなくろっ骨などいろいろな骨が合わさって体を支えていることに気付く。また、首にも骨があると知り「かかしにも(骨が) 必要だ」と考える。
- 自分の骨や友達のを触り、硬い骨を感じる子どもたち…。また骨だけでなく、皮膚や筋肉、血管などで生きている体を知り、興味深く、触れ見つめ感じていた。「頭にボウルみたいな骨(頭蓋骨)があるね」
- 「あっ! これが骨だね」「背骨は太くて硬いよ」「硬いけど、僕は骨を折った人を見たことあるよ」「そうだ! 骨って強いけど折れるんだ」「そっと触ろう」「大事な骨だからね」



保育者の思い

ひとつの質問に次々と言葉が返ってきて、子どもたちの関心や知識、思いが伝わってきた。骨は丈夫なようだが、折れることもあることを知り、友達の骨を感じながら、優しく触れる姿を見て、大切に思う気持ちを感じた。骨の仕組みを考えることから、自分自身のこと、友達の体の大切さに触れることができた。

✦ かかし2号作り

- 骨に触れて分かったことから考えがいろいろと出る。「人間の体にはいろんな骨がある!」「骨がなかったら、フニャフニャになっちゃう」
- 保育者「背骨は1本でいいかな?」と子どもたちに尋ねる。
- 「1本だけじゃ倒れちゃう」「2つ重ねたら、強いかかしになって倒れないと思う」
- 再び、自分の体を触りながらある子どもが「肩は丸みがあるよ」と言う。
「板(木)は四角だから切ろう」「人間の体に似た下書きをして切ってもらおう」「背骨の長い棒は首にもしよう」「首の骨がなかったら、グワングワンになっちゃう」
- 「人間の体に似せるなら服も必要だね」「雨の日は?濡れてしまうよ」と、言う。
- 保育者が、「みんなは雨の日どうしてる?」と尋ねる。子どもたちから、様々なことが出る。
「レインコートや傘を差している」「傘は飛ばされるね」「重しを付ける?」「傘をさしていたら鳥からかかしが見えなくなるよ」「傘の上に頭を付けられれば?」「それじゃ人間ばい、かかしじゃない」「レインコートは飛ばされてしまうかも…」「傘もレインコートもいらない?」「でもレインコートがないとかかしの体がくしゃくしゃになっちゃうからやっぱり付けよう」
- 保育者「背骨用の木は1本だけど、どうする?」
- 「土の中にズブッと入れられるから1本の方がいいと思う」などと次々と子どもたちのアイデアが飛びかう。
- 1番初めにかかしを作ったグループを中心にクラス全体で作り上げる作業中、保育者のヒントはあるものの、自分たちで考えアイデアを出し合い、やってみようとする姿が多かった。例えば



頭と首を合わせる時、体の重心に気付く。「(背骨を)真ん中にしないと体がずれちゃう」それを聞き、周りの子もハッとした表情を見せていた。

✦ 考察

- 野菜作りを始め、カラスに食べられてしまう経験をし、大切な野菜を守りたい気持ちから方法を考え、物を作り、そして骨の仕組みを知ることによって繋がっていった。
- かかし2号を作る際に「背骨を付けて強くしよう」という考えが子どもたちから出てきた。その意見が出てきたのはこれまでの経験や見聞きしたことを元に「人間は背骨があるから背中が曲がらないんだ」と気付いたからと思われる。
- そのことを受け止めた保育者が更なる疑問を投げかけたことによって子どもたちの興味・関心は人間の骨の仕組みへと広がりを見せていった。そして、自分でも絵本を見て調べてみるという探究心や、触ってみるという五感からの刺激により、子どもたちなりに確かなものになったのではないだろうか。
- 骨について新しく知ったことを友達や保育者と共有・共感することで相手の話からも刺激を受け、更に知りたいという思いを強くしていったと思える。そして、それを基に今までよりしっかりとしたかかし2号を作り上げることができ、カラスに食べられることもなく収穫できるという体験に繋がった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」